美作市埋蔵文化財発掘調査報告 第５集

勝田天山弥生墳丘墓・河内遺跡

美作市クリーンセンター建設に伴う発掘調査

２０１５

美 作 市 教 育 委 員 会

美作市埋蔵文化財発掘調査報告 第５集

勝田天山弥生墳丘墓・河内遺跡

美作市クリーンセンター建設に伴う発掘調査

２０１５

美 作 市 教 育 委 員 会

序

岡山県美作市は、岡山県の北東部に位置し、北は鳥取県と東は兵庫県との県境となっています。古来より交通の要衝として、出雲街道と因幡街道を中心に発達し、現在まで豊かな文化をはぐくんできました。本書に掲載した勝田天山弥生墳丘墓と河内遺跡の周辺では、古くは縄文時代の遺跡から中世の山城、そして現在に至るまで脈々と人々の営みが築かれてきました。

このたび、美作市クリーンセンターが新営されることになり、事業計画に伴い現地踏査を実施したところ、新規の遺跡である勝田天山弥生墳丘墓と河内遺跡を発見しました。美作市教育委員会では、関係機関と協議を行った結果、平成22年度中に記録保存のため発掘調査を実施することとしました。

調査の結果、勝田天山弥生墳丘墓では、弥生時代後期の墳丘に貼石を持つ、県内でも珍しい方形貼石墳丘墓であることがわかりました。また河内遺跡では弥生時代の住居を1軒確認するなど本市の歴史を知るうえで、多くの成果を挙げることができました。特に勝田天山弥生墳丘墓は、クリーンセンター建設予定地から除外し、保存することとなりました。

この報告書が本市の歴史を理解するための一助となり、また広く埋蔵文化財に対する理解と関心を高めるうえで役立つならば幸いと存じます。

なお最後になりましたが、発掘調査から報告書作成に至るまでご協力いただきました、関係各位に対し心より厚く御礼申し上げます。

平成27年3月31日

美作市教育委員会
教育長　大　川　泰　栄

例　言

1　本書は、美作市クリーンセンター建設事業に伴い、美作市教育委員会が発掘調査を実施した勝田天山弥生墳丘墓・河内遺跡の調査報告書である。

2　勝田天山弥生墳丘墓は岡山県美作市河内１４３－２番地及び杉原３４８番地に所在する。河内遺跡は岡山県美作市河内７２番地に所在する。

3　美作市クリーンセンター建設に関する事業範囲は約 75,000 ㎡で、確認調査及び発掘調査は、平成 22 年度に美作市教育委員会が実施し、池田和雅が担当した。確認調査面積は 111 ㎡、発掘調査面積は 870 ㎡である。

4　報告書の作成は、平成 25 年から平成 26 年度にかけて美作市教育委員会が実施し、その執筆は、池田が担当した。

5　勝田天山弥生墳丘墓の表土除去後の墳丘測量は、西部技術コンサルタント株式会社に委託し、実施し、池田が一部加筆、修正した。

6　遺物の洗浄、注記、接合は、㈲フジテクノに委託し実施した。

7　本書に関連する出土遺物および図面・写真等は、美作市教育委員会（美作市江見９４５）に保管している。

凡　例

1　本書で用いた高度値は海抜高であり方位は平面直角座標世界測地系第Ⅴ系の座標北である。

2　図面縮尺については、各図に明記してあるが、主なものについては以下のように統一している。
　遺物
　　土器：1/4　　石器：1/2・1/3　　金属器：1/2　　桃核：1/2

3　本報告書の挿図番号、表番号、図版番号は連続番号であるが、遺構番号、遺物番号は遺跡ごとの連番である。

4　遺物番号には、材質を示すため、土器以外のものについては略号を番号の前に付した。
　石製品：S　　金属器：M

5　遺構、遺物の色調は、農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』に準拠した。

6　第2図は、国土地理院発行の1/25,000地形図「真加部」・「日本原」を複製・加筆したものである。

目　次

序
例　言
凡　例
目　次

第Ⅰ章　周辺の地理的・歴史的環境 …… 1

第Ⅱ章　調査の経緯と経過
第1節　調査に至る経緯 …… 4
第2節　発掘調査の経過 …… 5
第3節　調査の体制 …… 7

第Ⅲ章　勝田天山弥生墳丘墓
第1節　調査概要 …… 8
第2節　遺　　構 …… 9
第3節　出土遺物 …… 15

第Ⅳ章　河内遺跡
第1節　調査概要 …… 18
第2節　遺構と遺物 …… 18

第Ⅴ章　まとめ …… 22

図　版
報告書抄録

図 目 次

第1図　遺跡位置図 …… 1
第2図　周辺遺跡分布図（1/30000） …… 2
第3図　調査区位置図・トレンチ配置図 …… 4
第4図　勝田天山遺跡（トレンチ5）平・断面図　出土遺物 …… 5
第5図　クリーンセンター建設当初計画図 …… 6
第6図　クリーンセンター建設変更計画図 …… 6
第7図　勝田天山弥生墳丘墓調査前測量図（1/500） …… 8
第8図　墳丘墓平面図（1/200） …… 10
第9図　墳丘断面図（1/100） …… 11
第10図　墳丘主体部平・断面図（1/60） …… 12
第11図　墳丘列石配置図①（1/100） …… 13
第12図　墳丘列石配置図②（1/100） …… 14
第13図　遺物出土位置図 …… 15
第14図　出土遺物（1/4） …… 16
第15図　その他の出土遺物 …… 16
第16図　中世以降の出土遺物（1/2） …… 16
第17図　河内遺跡遺構配置図（1/500） …… 17
第18図　調査区平面図（1/100） …… 18
第19図　竪穴住居出土遺物（1/4） …… 18
第20図　竪穴住居平・断面図（1/30） …… 19
第21図　遺構平・断面図（1/30） …… 20
第22図　その他の出土遺物（1/4） …… 20

写真目次

写真1　現地説明会の状況 …… 6
写真2　作業に従事した方々 …… 7
写真3　北西列石裏面（南西から） …… 9
写真4　墳丘保存状況（南西から） …… 9

図版目次

図版1　1　クリーンセンター予定地遠景（西から）
　　2　勝田天山弥生墳丘墓空撮（北から）
図版2　1　勝田天山遺跡トレンチ（南から）
　　2　勝田天山遺跡トレンチ土坑及び検出状況（東から）
図版3　1　勝田天山弥生墳丘墓調査前（北西から）
　　2　勝田天山弥生墳丘墓（北西から）
図版4　1　勝田天山弥生墳丘墓（南西から）
　　2　勝田天山弥生墳丘墓（南東から）
図版5　1　勝田天山弥生墳丘墓列石検出状況①（北から）
　　2　勝田天山弥生墳丘墓列石検出状況②（北から）
図版6　1　勝田天山弥生墳丘墓北西列石（北から）
　　2　勝田天山弥生墳丘墓南東列石（南から）
　　3　勝田天山弥生墳丘墓北東列石（北から）
図版7　1　勝田天山弥生墳丘墓墓坑検出状況（北西から）
　　2　勝田天山弥生墳丘墓南北西トレンチ墓坑（南から）
図版8　1　勝田天山弥生墳丘墓墳頂南西トレンチ断面（北西から）
　　2　勝田天山弥生墳丘墓墳頂北西トレンチ断面（北から）
図版9　勝田天山弥生墳丘墓墳丘全景（左上が北）
図版10　勝田天山弥生墳丘墓墳丘墓出土土器
図版11　1　勝田天山弥生墳丘墓墳丘墓出土石製品
　　2　勝田天山弥生墳丘墓墳丘墓出土植物
　　3　勝田天山弥生墳丘墓周辺遺構に伴わない出土遺物
図版12　1　河内遺跡調査前（北西から）
　　2　河内遺跡調査後（北西から）
図版13　1　河内遺跡竪穴住居（南から）
　　2　河内遺跡竪穴住居断面（南から）
図版14　1　河内遺跡土器出土状況（南から）
　　2　河内遺跡土器出土状況近景（南から）
図版15　1　河内遺跡竪穴住居出土土器
　　2　河内遺跡竪穴住居出土須恵器

第Ⅰ章　周辺の地理的・歴史的環境

勝田天山弥生墳丘墓及び河内遺跡は、岡山県の北東部に位置する美作市に所在する。美作市は、北は西粟倉村、鳥取県八頭郡智頭町と兵庫県宍粟市、東は兵庫県佐用郡佐用町に接した県境に位置する。市の北部は、中国山地の脊梁部の南に位置することから、岡山県下最高峰の後山（1,344m）を含む、標高1,000mを超える山々がそびえる。市の南部は、中国山地から伸びる50～500mの丘陵台地で構成されている。中国山地に源を発する吉野川、梶並川は市北部を南北に貫流し、市南部の林野で合流し吉野川となる。吉野川は、赤磐市周匝で岡山県の三大河川である吉井川に合流して岡山県南部へ流れる。市内では吉野川、梶並川より樹枝状に展開する谷間から、小河川である黒谷川、後山川、大滝川、河内川、山家川と東谷川、馬桑川、粟井川、滝川などの小河川がそれぞれ吉野川、梶並川に注ぎ込んでいる。市内の平野部はこれら中小河川の谷底平野が主で、特に市北部では地形に制約された狭長な平野が多い。

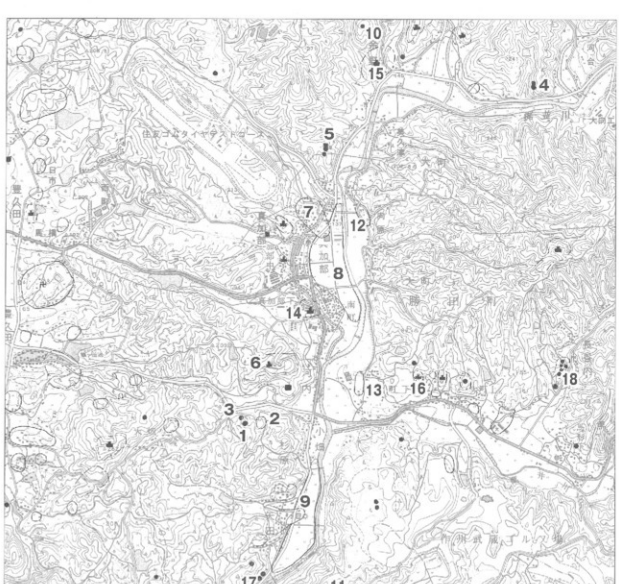
本報告に掲載した勝田天山弥生墳丘墓、河内遺跡が所在する美作市河内、杉原の2地区は、平成の大合併以前の「勝田町」を構成する地区で、美作市の北西部、梶並川の右岸に位置し、梶並川に沿って形成された狭長な谷底平野が丘陵地によって囲まれている。本遺跡群から北へ4km行くとより梶並川沿いにより小規模な平坦地を形成する山間部となる。遺跡は梶並川へ注ぐ支流である河内川の南側丘陵に所在する。近年の遺跡詳細分布調査等[※1]によって、周辺には遺跡の存在が多数知られるようになった。そのため遺跡周辺の歴史を最近の調査結果を踏まえて触れたい。

本遺跡の周辺には、縄文時代草創期の遺跡・遺物は確認されていないが、近年の発掘調査によって、市内の尾崎遺跡[※2]や勝央町の大河内遺跡[※3]から縄文時代草創期の遺物が確認されている。本遺跡から梶並川に沿って、北へ1.2kmの梶並川右岸の平野部にある真加部石ヶ坪遺跡[※4]で縄文時代後期の集落の一端とされる遺構が確認されている。集落遺跡の中心は平野部から丘陵への緩やかな斜面と考えられている。

弥生時代に入ると遺跡数が増え、本遺跡周辺で発掘調査は実施されていないが、昭和40年から50年代にかけて、ゴルフ場開発や圃場整備に伴い弥生時代中期から後期の土器が採集されている。このことから本遺跡周辺においても弥生時代の集落があったことが考えられる。

古墳時代に入ると、本遺跡の所在する梶並川流域に古墳が多く築かれる。本遺跡から北へ約4kmの位置で、平野部と山

第1図　遺跡位置図



第２図　周辺遺跡分布図(S＝1/30,000)

１勝田天山弥生墳丘墓　２河内遺跡　３河内古墳　４河合古墳　５真加部観音堂古墳群　６河内山城　７石ヶ坪遺跡
８真加部条理　９矢田条理　10 金野中古墳　11 金神子古墳群　12 散布地　13 散布地　14 真加部構跡　15 松本寺構跡
16 別所城跡　17 矢田古墳群　18 山風呂古墳群

周部の境界に河合古墳がある。河合古墳は近年測量調査※5が実施され、全長約 46m、高さ 3m を測り、その墳形から美作地方で最古級の前方後円墳とされている。河合古墳から南へ約 1km、本遺跡から北へ 3kmの位置には、河合古墳と同じく前方後円墳の真加部観音堂１号墳が所在する。真加部観音堂１号墳は、全長約 44m を図り、隣接して径約 18m の円墳である真加部観音堂２号墳が築かれている。真加部観音堂古墳群※6は、河合古墳よりも若干時代は下るが、古墳時代前期の古墳群とされている。本遺跡周辺

では古墳の発掘調査は実施されてないため築造時期など詳細は不明であるが、本遺跡より北に約3kmの位置に径23m、高さ3mの余野中古墳、本遺跡から南に1.4kmの位置には、径22.5m、高さ3mの金神子1号墳と径16.7m、高さ2mの金神子2号墳など本地域では比較的規模の大きな古墳が所在する。横穴式石室を持つ古墳は、真加部平野を望む丘陵を中心に築かれている。本遺跡より南に約1kmの位置に所在する矢田1号墳（通称「火の釜古墳」）は、径10mの円墳では、石室内からは、陶棺片が出土している。同じ矢田区内の古墳からは、明治期の工事によって、勾玉、管玉、切子玉、金銅製耳環が出土している。当時の状況を描いた絵図には、石室内に陶棺と陶棺周辺に須恵器が配されていた様子が描かれており、出土遺物などから古墳時代後期の古墳と考えられる。以上のとおり古墳時代には、梶並川に沿うように古墳時代前期から古墳時代後期にかけて脈々と古墳が築かれていたことがわかる。

古代には、美作国勝田郡香美郷と吉野郷に相当する。本遺跡周辺には、当該期の遺跡は確認されていない。条里遺構とされる真加部条里[※7]、矢田条里[※8]が存在するが、いずれも発掘調査が実施され、古代に遡る遺構は確認できず、現在の地割は中世段階に由来することが明らかとなってきている。

しかしながら、梶並川左岸の真加部平野に張り出す丘陵裾部や梶並川の支流である粟井川右岸の丘陵裾部において、古代の遺物が採集されていることから、周辺に遺跡の存在を確実に否定することはできない。

中世に入ると遺跡周辺を含む旧勝田町は、菅原道真の末裔とされ、東美作に勢力を持った「美作菅家党」の支配下となる。戦国時代に入ると東美作の地は、赤松氏、山名氏、尼子氏、毛利氏と周辺の大国の草刈り場となっており、美作菅家党も周辺大国と駆け引きすることによって支配地を保っていた。本遺跡周辺には、河内山城、真加部山城、余野山屋敷など美作菅家党が築いたとされる遺跡が残っている[※9]。美作菅家党は、これらの城に拠って、攻防を繰り広げたが、宇喜多家の美作侵攻によって、美作菅家党は解体し、ほとんどが帰農したとされる。

近世にはいると宇喜多・小早川家氏の支配から、1603年（慶長8年）に森氏が津山藩主となり、本遺跡周辺も津山藩の領地となる。1697年（元禄10年）には、森氏が改易となったため、幕府領となった。以後は、天領や上州沼田藩領など諸藩の飛び地の領地として、細かく分割され明治に至る[※10]。

※1『改訂岡山県遺跡地図』〈第八分冊　勝英地区〉岡山県教育委員会　2003

※2　福田正継・平井泰男ほか
「八幡山遺跡・八幡南遺跡・八幡円明寺遺跡・尾崎遺跡・中町B遺跡・穴が迫遺跡・穴が迫古墳・今岡D遺跡・今岡中山遺跡・今岡古墳群・高岡遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』213　岡山県教育委員会　2008

※3　岡本泰典・石田篤成「大河内遺跡・樋都遺跡・下坂遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』216　岡山県教育委員会　2008

※4　岡本泰典・江見正巳　「石ヶ坪遺跡」『勝田町遺蔵文化財調査報告』1　勝田町教育委員会　2000

※5　平成21年度の澤田秀実氏による測量調査

※6　近藤義郎・澤田秀実・倉林真砂斗『美作の首長墳』古墳人出版　2000

※7　尾上元規「矢田条里」『岡山県遺蔵文化財報告』26　岡山県教育委員会　1996

※8　金田善敬「主要地方道美作奈義線建設に伴う発掘調査」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』27　岡山県教育委員会　1997

※9『美作国の山城』　第25回国民文化祭津山市実行委員会　2010

※10『勝田町誌』勝田町教育委員会　1975

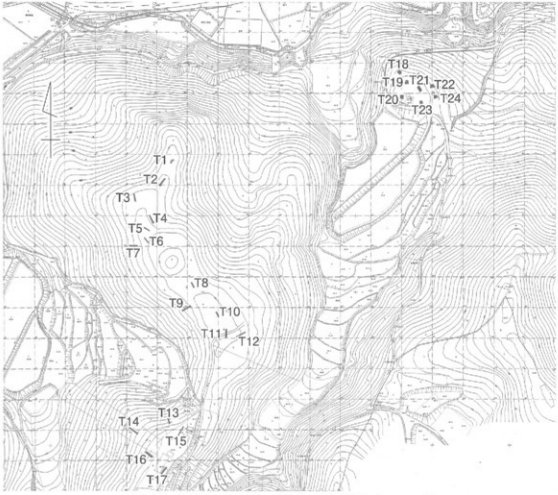
参考文献

『勝田町の城址と構え跡』　勝田町教育委員会・勝田町文化財保護委員会　1996
『勝田町の文化財』　勝田町教育委員会・勝田町文化財保護委員会　1992

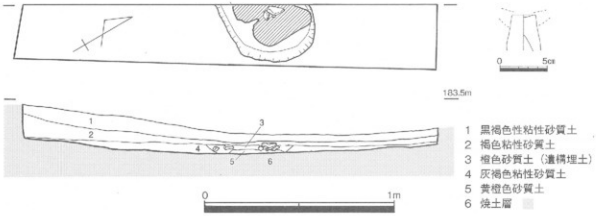
第Ⅱ章　調査の経緯と経過

第１節　調査に至る経緯

美作市クリーンセンターは、現行の美作美化センターの老朽化等のため、平成22年３月議会において新たに河内・杉原地区での建設が決定された。新設するクリーンセンターの事業計画面積は周辺施設や進入路など約75,000㎡と広大な敷地である。建設予定地周辺に周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていなかったが、事業担当課である美作市役所市民部環境課（以下：担当課）による地元説明会で、建設予定地内で土器が表採されていることが地元住民から報告された。このことを受けて平成22年８月２日に担当課から教育委員会に建設予定地内の遺跡詳細分布調査実施の依頼があった。８月10日に分布調査を実施した結果、河内遺跡と杉原古墳（後に「勝田天山弥生墳丘墓」に名称変更）の存在が明らかとなったため、８月23日付け美教社第275号で美作市長安東美孝から文化財保護法（以下法）第97条の規定に基づき岡山県教育委員会へ遺跡発見の通知を行った。河内遺跡の範囲確認調査と、勝田天山弥生墳丘墓の所在する尾根一帯への試掘調査は、10月から11月にかけて実施した。調査の結果、河内遺跡は後世の開発行為によって、大きく削平を受けていることが判明した。また、勝田天山弥生墳丘墓か



第３図　調査区位置図・トレンチ配置図（S=1/2500）



第4図　勝田天山遺跡（トレンチ5）平・断面図（S=1/20）・出土遺物（S=1/4）

ら北へ約10mの同一尾根上に新たに勝田天山遺跡の存在を確認したため（第4図）、12月4日付け美教社第414号で法97条に基づく遺跡発見の通知を岡山県教育委員会へ行った。

確認調査及び試掘調査の結果を受けて担当課及び県教育委員会と遺跡の取り扱いについての協議を行ったが、計画の変更は難しいことから勝田天山弥生墳丘墓の全面発掘調査と河内遺跡については、弥生時代の遺構を確認した範囲について発掘調査を実施することとした。弥生時代の遺構を確認した勝田天山遺跡については、開発範囲から外れることから現状保存することとなった。なお、法97条遺跡発見の通知に基づき、岡山県教育委員会からは12月16日付け教文埋第1020号で勝田天山弥生墳丘墓と河内遺跡については発掘調査を実施するよう勧告を受けている。

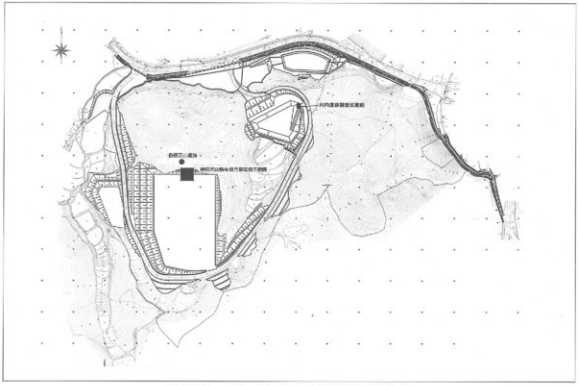
第2節　発掘調査の経過

平成22年12月24日から勝田天山弥生墳丘墓の発掘調査を開始し、同日付け美教社第451号で、法99条の規定に基づく埋蔵文化財発掘調査の報告を岡山県教育委員会へ提出した。勝田天山弥生墳丘墓は、調査が進むにつれ美作市内では類例のない貼石を持つ弥生墳丘墓であることが判明したため、平成23年2月24日に改めて担当課と保存に向けた協議を行い、弥生墳丘墓については事業計画を変更し現状保存することが決定した（第6図）。河内遺跡については、事業計画の変更が難しいため、当初の予定どおり記録保存することを改めて確認した。このため、勝田天山弥生墳丘墓の発掘調査は、必要以上の掘り下げを行わないこととなり、平成23年3月17日から航空写真撮影及び墳丘測量を実施し3月27日に調査を終了した。

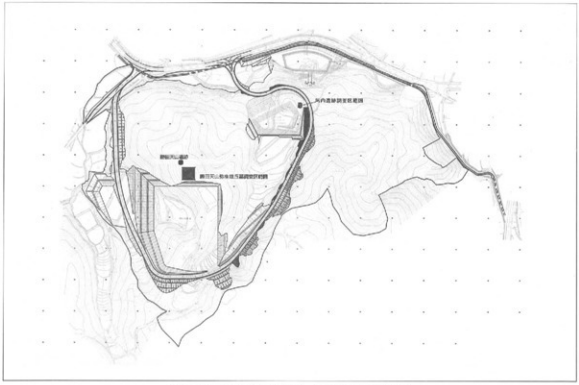
河内遺跡は、平成23年3月4日から勝田天山弥生墳丘墓の調査と並行して発掘調査に着手し、同日付けで法99条の規定に基づく埋蔵文化財発掘調査の報告を岡山県教育委員会へ提出した。河内遺跡では発掘調査の結果、弥生時代後期の住居を1軒検出し、平成23年3月25日に発掘調査を終了した。

平成23年3月28日には、勝田天山弥生墳丘墓の発掘調査現地説明会を開催し、市内外から100名以上の参加者があった。

現地説明会状況写真



第５図　クリーンセンター建設当初計画図



第６図　クリーンセンター建設変更計画図

第3節　調査の体制

発掘調査は美作市教育委員会が主体となって実施した。調査体制は以下のとおりである。

発掘調査（平成22年度）

美作市教育委員会	教育長	内海　寿志
	教育次長	中尾　友保
	教育総務課長	田渕　憲一
	教育総務課主任	池田　和雅（調査担当）

報告書作成（平成25～26年度）

美作市教育委員会

25年度

教育長	内海　寿志
教育次長	福原　覚
社会教育課長	川野　修
社会教育課主任	池田　和雅（報告書作成）

26年度

教育長	内海　寿志（～6月8日）
	大川　泰栄（8月6日～）
教育長職務代理者	小林　昭文（6月10日～8月5日）
教育次長	小林　昭文
美作分室長	貞森　博美
美作分室主任	池田　和雅（報告書作成）

尚、発掘調査には、厳しい寒さの中、次の方々にご協力いただきました。記して深謝の意を表します。

岡田正人・岡田義人・定森富子・綱島あつ子・鷹取重信・鷹取真三・豊福武・春名敬司・福田修・松田尚男・湯汲正和（50音順・敬称略）

下記の方々及び機関には発掘調査及び保存方法、本書の作成にあたりご指導・ご協力を賜りました。記して深謝の意を表します。

粟屋聡・粟屋多恵子・石田爲成・宇垣匡雅・大橋雅也・小郷利幸・小幡一之・日下隆春・河本清・澤田秀実・田正雄・豊島雪絵・新谷俊典・仁木康治・平岡正宏・松木武彦・宮崎絢子・行田裕美・米田克彦・岡山県教育庁文化財課・津山弥生の里文化財センター（50音順・敬称略）

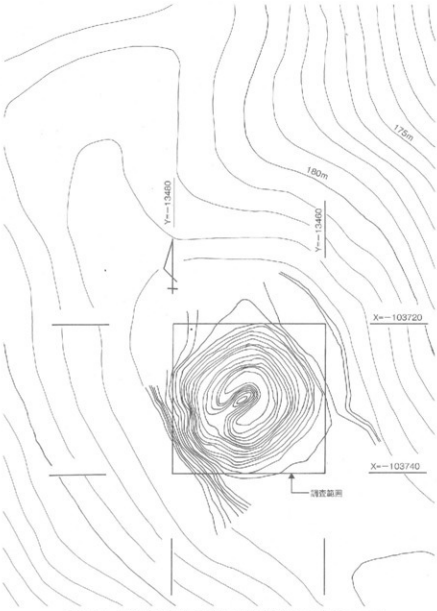
写真1　作業に従事した方々

第Ⅲ章　勝田天山弥生墳丘墓

第１節　調査概要

勝田天山弥生墳丘墓は、梶並川の支流である河内川右岸の南から北へと伸びる丘陵尾根上の標高約185m に立地する。墳丘墓は平野部西のやや奥まった丘陵上に築かれているため、北東に広がる真加部平野や梶並川を望むことはできない。勝田天山弥生墳丘墓が立地する丘陵上には、試掘調査によって確認した弥生時代の遺構と、分布調査によって、墳丘墓から北西約 50m の丘陵斜面に径約 10 m、高さ約 1m の古墳を確認している。

発掘調査着手以前の墳丘墓の状況は、植林地となっており、それ以前の土地利用については不明である。墳丘中央部から墳丘西側に向けて大きく窪んでおり、盜掘など後世の撹乱を受けていたことが明らかであった。墳丘は方形を呈し、石材が一部直線状に配されていたことから、葺石を持つ方墳として調査に着手したが、美作市内では発見例の無い弥生時代の方形貼石墳丘墓であることが分かった。既に墳丘中央部が撹乱を受けているため、墳丘に設定したトレンチの断面と平面から墓坑を検出した。貼石は墳丘四方で確認したが、原位置を保つ石材と転石などで原位置を保っていない石材とに分かれる。



第７図　勝田天山弥生墳丘墓調査前測量図（S=1/500）

墳丘掘り下げ作業の途中で現状保存の方針が決定し、すでに墳丘掘り下げ作業を行っていた西側部分については、現状以下の掘り下げを行わないことその他の範囲については掘り下げ作業を行わず、終了となったため、石材の判別は未了となった。また主体部についても、トレンチによる検

出のみで掘り下げ作業は行わず、墳丘墓の測量及び航空撮影を実施し調査は終了となった。調査終了後に石材を土嚢袋によって養生し、墳丘全体を川砂、発生土で覆い貼芝により保存している（写真2,3）。

写真2　北西列石養生（南西から）

写真3　保存状況（南西から）

第2節　遺　　構

(1) 規模、墳形（第8図）

墳丘は表土を除去した結果、北西辺15.9m、南西辺17.0 m、南東辺17.2 m、北東辺16.6mを測り、周囲に貼石にめぐらすことが判明した。東西軸はN－56°Eで墳丘四隅がほぼ正方位を示している。四隅の突出は見られないが、南北の隅部が東西の隅部に比べ緩やかな傾斜となっている。墳丘高は、最も比高差が大きい墳丘北東面の墳丘裾部から墳頂部まで約2mを測る。

(2) 盛り土（第9図）

墳丘を断ち割って土層を確認した。墳丘は、地山成形後盛り土によって構築されている。盛り土の厚さは高所となる北西部で1m、最も低い南東部で32cmである。墳丘南西トレンチにおいては、後世の撹乱によって掻き出された土が堆積している。このため、実際の盛り土の厚さは50cm程度である。最下層は、地山は黄橙色砂質土で、削り出しによって、段を整形している。第5層は、灰褐色粘性砂質土で、墳丘南東面のみ確認することができなかったが、その他のトレンチでは、整形された地山上に積み上げられており、立石は第5層を掘り込んで立てられている。第3層は橙色砂質土で、第4層は第3層と同じく橙色砂質土であるが、小礫を多く含む。第3層と第4層は、非常に締まった状態で墳裾部まで積み上げられている。墓坑埋土と考えられる茶褐色粘性砂質土の層は、第3層から掘り込まれている。第2層の褐色粘性砂質土は墳丘からの流出土で、遺物はこの層から出土している。第1層は、黒褐色粘性砂質土で現代の表土である。

以上から墳丘墓の築造を復元すると、地山整形後に第5層を主に墳頂平面部に積みあげ、小礫を多く含む第4層を墳頂部から墳裾部まで広く積み上げる。同じように第3層を積み上げ墳丘は完成する。貼石は、立石のみ地山整形後の墳丘斜面上部と第5層を積み上げた後の墳裾部に置かれている。その他の貼石は、表土直下の第2層流出土中から確認できることから、貼石の多くは原位置を保っていないと考えられる。

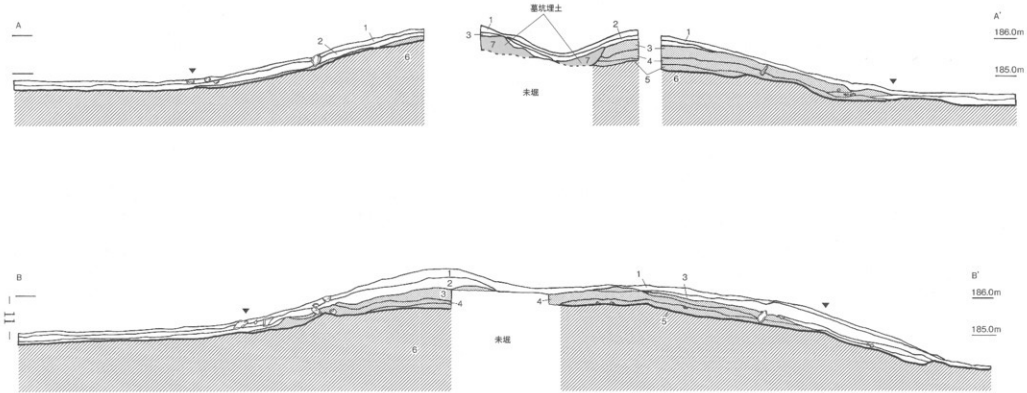
第８図　墳丘墓平面図（S=1/200）

(3) 貼石（第11,12図）

墳丘の四方に拳大から60cmの貼石を確認することができた。石材は主に現地の山石を利用しているが、一部川原石を利用している。石材の種類による使い分けは確認できなかった。墳丘北側は、墳丘南側に比べ石材が集中していた。墳丘四隅では石材の残存状態が悪いため、貼石が施されていたかは不明である。墳丘斜面上部にみられる直線状の列石は、平たい面を持つ一辺 40 ～ 50cm程度の石材を地山整形後に平滑な面を墳丘の外側に向け立石として置いて、墳丘斜面上部にめぐらせているようであるが、すでに崩落している箇所も多く、明瞭とは言い難い。北側墳丘の一部では、立石の上に 30cm ～ 50cm の厚みのない石材を墳丘外側に長側面を向け一段積んでいる。立石から墳頂部にかけては、石材を確認することができなかった。根石から墳裾部にかけての墳丘斜面では、墳丘北側の一部において貼石が見られたものの、原位置を保ったものは少なく、多くは転石などで原位置を保っていないものと考えられる。墳丘斜面及び墳裾部では、墳丘南東側を除く３方の墳丘に第４層の盛り土を積み上げた後に置かれた石材が一部に確認できた。墳丘南東面においては第３層積み上げ後に置かれた石材を確認した。

(4) 埋葬施設（第10図）

墳頂部中央から墳丘南西面にかけて大きく後世の攪乱を受けていることから、墳丘中央部は大きく窪んでいた。墳丘墓の現状保存が決定したことにより必要以上の掘り下げ作業は実施しなかったため、埋

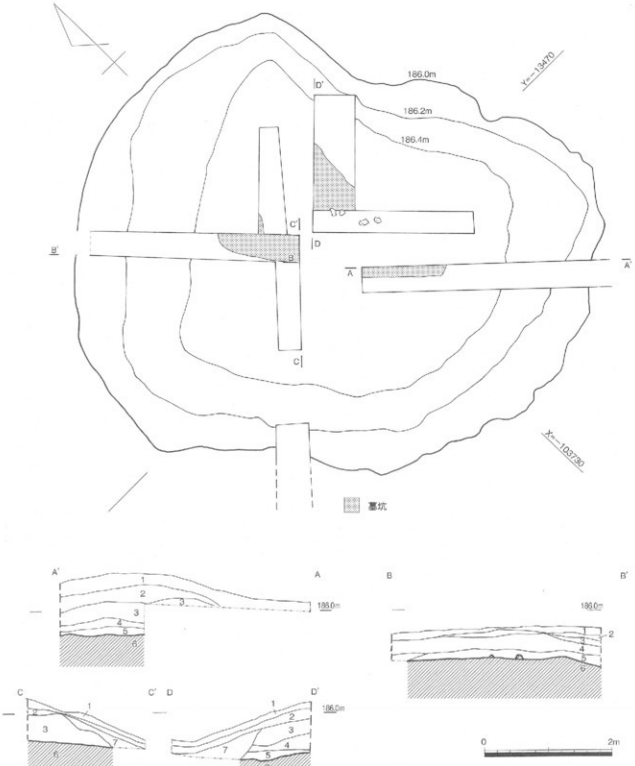


1 黒褐色粘性砂質土（10YR 3/1）
2 褐色粘性砂質土（10YR 4/4）
3 橙色砂質土（墳丘盛土）（7.5YR 6/6）
4 橙色砂質土（小礫多く含む）（墳丘盛土）（7.5YR 6/8）
5 灰褐色粘性砂質土（墳丘盛土）（7.5YR 4/2）
6 黄橙色砂質土（地山）（10YR 7/8）
7 明黄褐色砂質土（墓坑埋土）（10YR 6/8）

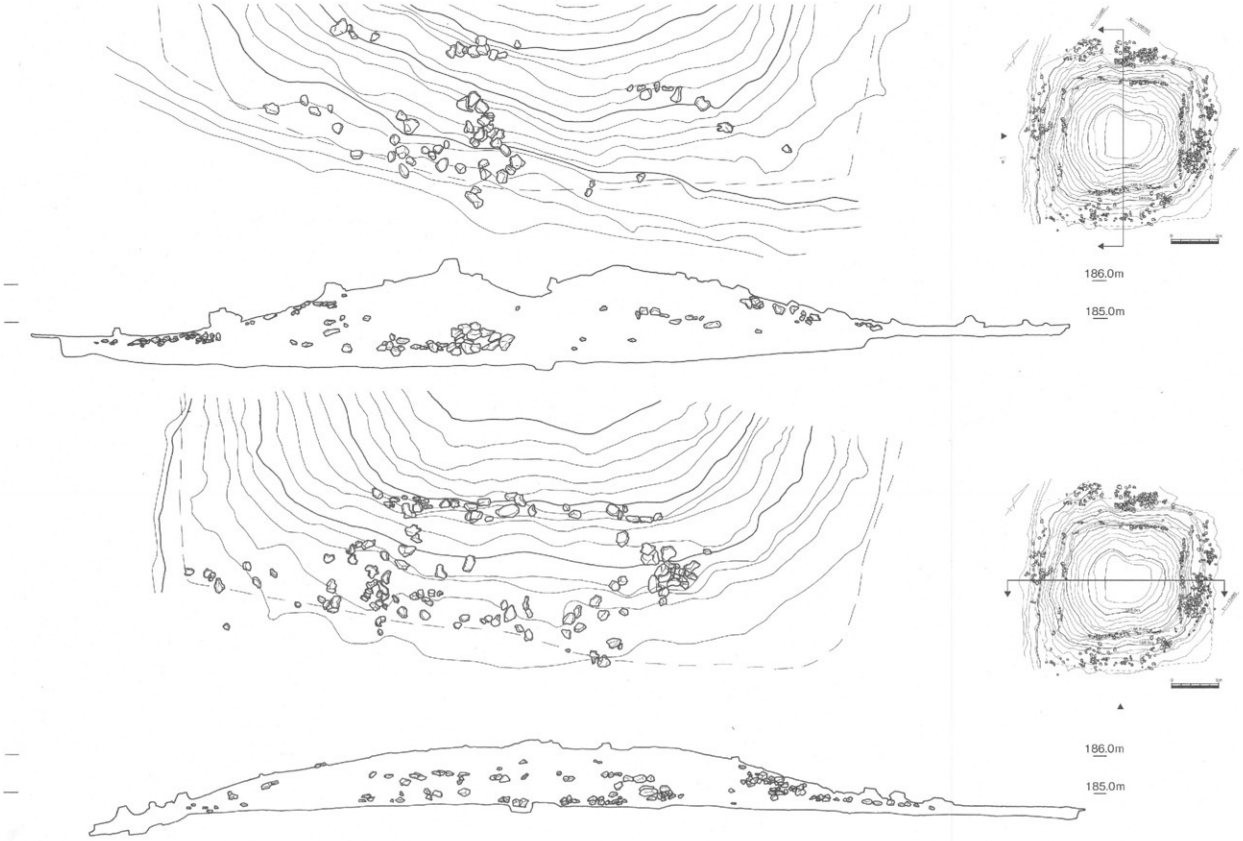
▼ 墳端

0 5m

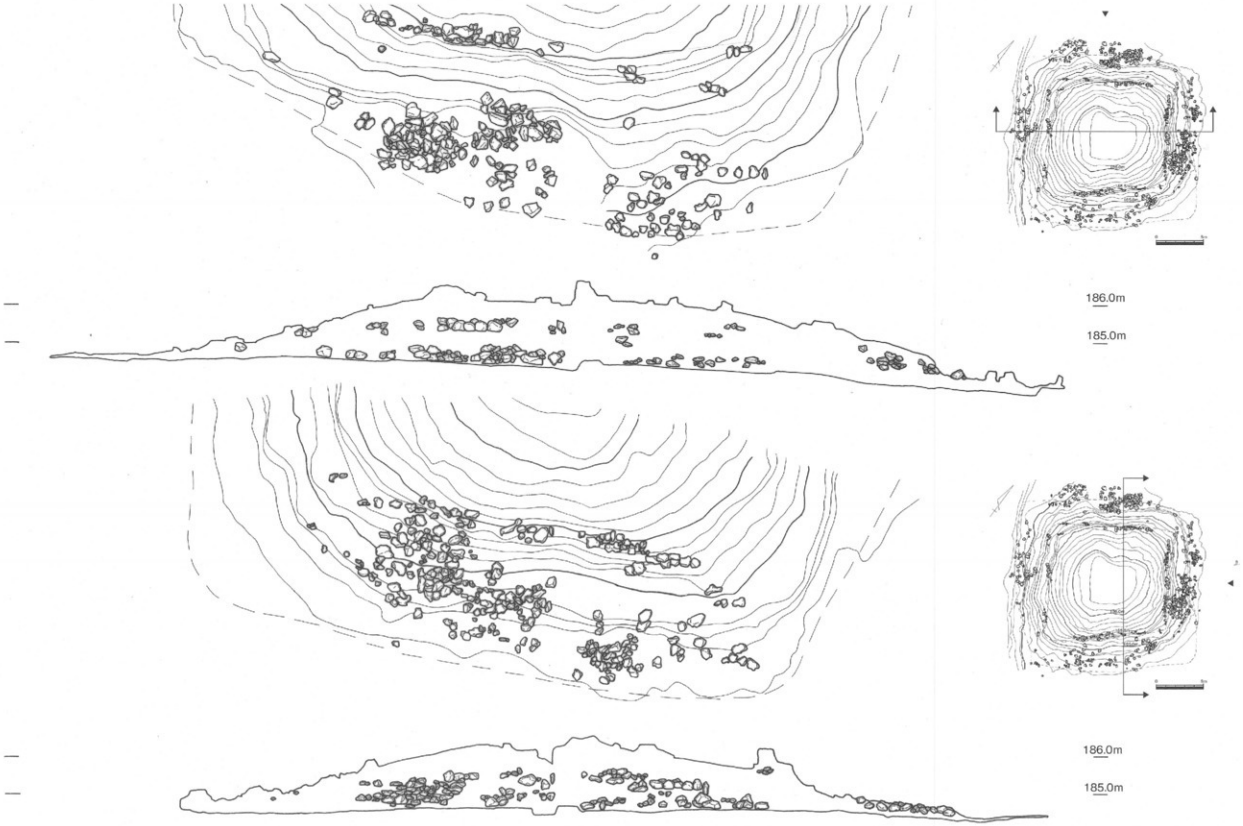
第9図　墳丘断面図（S=1/100）



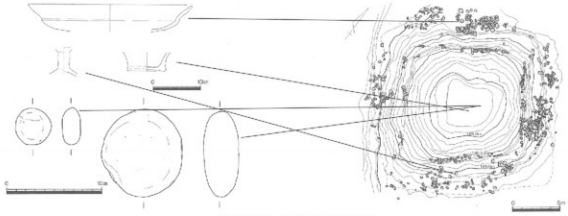
第 10 図　墳丘主体部平・断面図（S=1/60）



第11図　墳丘列石配置図①（S=1/100）



第12図　墳丘列石配置図②（S=1/100）



第13図　遺物出土位置図

葬施設は墳丘に設定したトレンチによる確認のみとなった。断面では、第3層から地山面に至る茶褐色粘性砂質土の墓坑埋土と考えられる層を確認した。平面では、トレンチのため全容を把握することはできなかったが、主軸に沿った墓坑と主軸に直交する別の墓坑を検出した。盛り土からの掘り込みが認められることから、墓坑の構築掘り込みは、墳丘に盛土が施されて後に行われていることが分かった。墳丘やや北側の墓坑の検出面で貼石と同様の20cm程度の角礫を4個検出した。

(5) 遺物の出土状況（第13図）

遺物は主に墳丘北東面の墳裾部から出土した。出土遺物のほとんどが流出土と転石に挟まり、細片となった状態で出土した。墳頂部では、壺底部（図15-5図）との磨石（図15-S1,S2）が出土した。墳丘斜面から墳裾部では、細片のため器種の判明するものが少なかったが、高杯、鉢などが出土した。また墳丘北西部の墳丘裾部では、桃核（図15P1,P2）が出土した。出土した土器から墳丘墓の時期は弥生時代後期中葉から後葉にかけての時期と推測される。

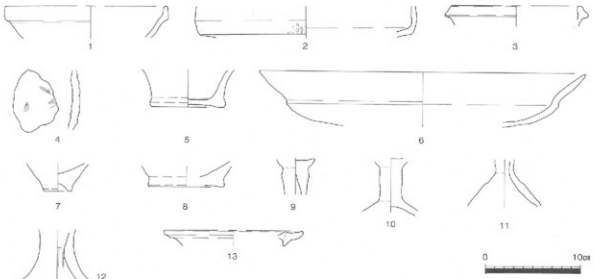
第3節　出土遺物

(1) 土器（第14図、図版10,11）

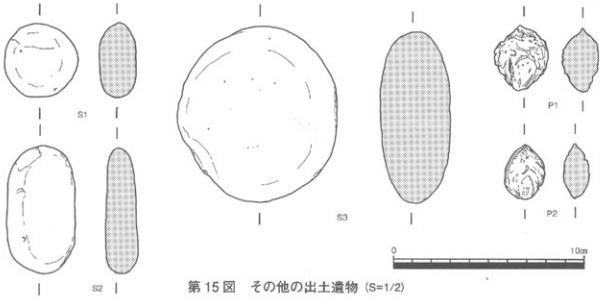
出土した土器の大半は、接合しない細片であり、完全に復元できるものはなかった。出土遺物の総数は、定形コンテナ（内寸540mm× 150mm× 345mm）3箱分である。多くは細片のため、図示することができなかった。その中で弥生土器13点（壺2、甕2、高坏5、鉢1、その他器種不明のもの3）を図示したが、磨滅が激しいため全容のわかる出土遺物は皆無である。1、2は壺の口縁部である。1はやや内湾した頸部から直上に口縁端部を短く立ち上げ、端部には平面を作っている。2は墳頂北西部から出土した壺の口縁部で、立ち上り部分にはヘラ先の刺突文が施されていたことが微かに確認できた。3は甕の口縁部である。4は器種不明であるが壺もしくは甕の胴部である。内面は指圧痕で調整している。外面はハケ調整が施されている。5、8は壺もしくは甕の底部である。5・8共に平底となっている。6は高杯の杯部分である。墳丘北側の墳裾部の貼石の転石と考えられる石材に挟まれ、細片の状況で出土した。脚部は不明であるが、杯部口径は34.4cmを測る。口縁部は、内湾した杯部から稜を持って外反しながら立ち上る。7は鉢の底部である。内湾する体部に台が付く。9～12は高杯の脚部である。10は柱部中実となっている。11、12は柱部から緩やかに裾が広がり中空となり、内部には絞り痕がみられる。13は器種不明であるが、鍔状の張り出し部分をつまむようにナデを施している。

(2) その他の出土遺物（第15図、図版12）

土器の以外の出土遺物として、石製品3点と桃核2点が出土している。S1～S3は磨石である。いずれもトレンチの墳頂部周辺から出土した。P1,P2は桃核で墳丘北西部の盛土掘り下げ中に出土した。

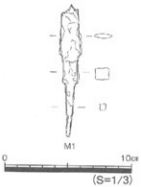


第14図　出土遺物（S=1/4）



第15図　その他の出土遺物（S=1/2）

(S=1/4)



(S=1/3)

第16図　中世以降の出土遺物

(3) 中世以降の出土遺物

（第16図、図版12）

表土掘削中に出土した。14は勝間田焼椀の口縁部である。15は勝間田焼椀の底部で糸切痕がある。M1は中世の鉄鏃である。

第Ⅳ章　河内遺跡

第１節　調査概要

河内遺跡は、梶並川の支流である河内川右岸の南から北へと伸びる丘陵尾根上の標高約 160m に立地する。遺跡は平野部西のやや奥まった丘陵上に築かれているため、北東に広がる真加部平野や梶並川を望むことはできない。

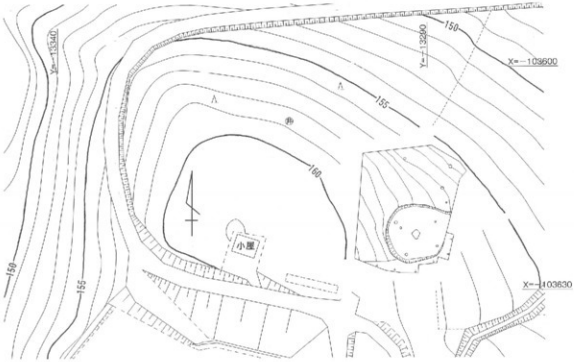
クリーンセンター建設にかかる地元説明会において、土器の採集が報告された箇所であるが、発掘調査着手前の状況は、雑木や笹などで覆われており、笹の下には椎茸栽培の組木が残っていた。また丘陵頂上北東斜面には井戸があり、丘陵全体に瓦やガラス片が散見できたことから、家屋などに利用されていたことが考えられる。それ以前の土地利用については不明である。トレンチ調査で、丘陵頂上より東側斜面に遺構を確認したことから、発掘調査を実施することとなった。

調査の結果、竪穴式住居１軒、ピット４基を確認した。

第２節　遺構と遺物

(1) 竪穴住居（第 20 図）

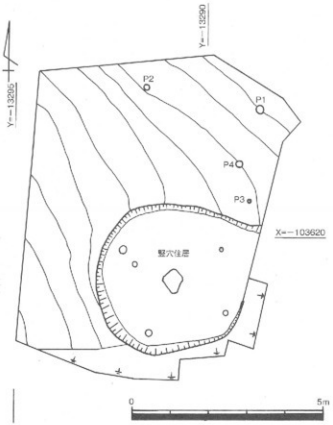
調査区東側に位置する。斜面に立地するため、住居の下側は流出している。直径 4m 前後の隅丸方形気味の平面形と推定される。検出面からの深さは約 40cmを測る。主柱は４本で東側２本の柱が内に入っ



第 17 図　河内遺跡遺構配置図（S=1/500）

いる。周壁溝は断面で一部確認することができたが、平面では確認することができなった。

住居中央の床面上には、炭や焼土粒の集中や被熱し赤変した範囲が確認された。出土遺物は、弥生土器甕、壺、高杯が出土している。甕第19図（2）は一個体が床面にまとまって出土しており、原位置を保っているものと考えられる。



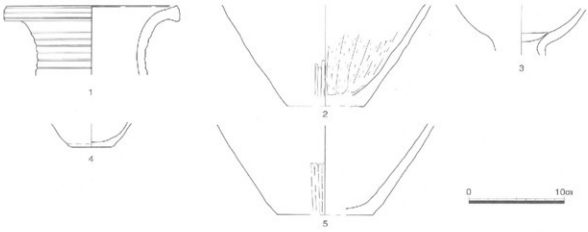
第18図　調査区平面図（S=1/100）

(2) 竪穴住居出土土器

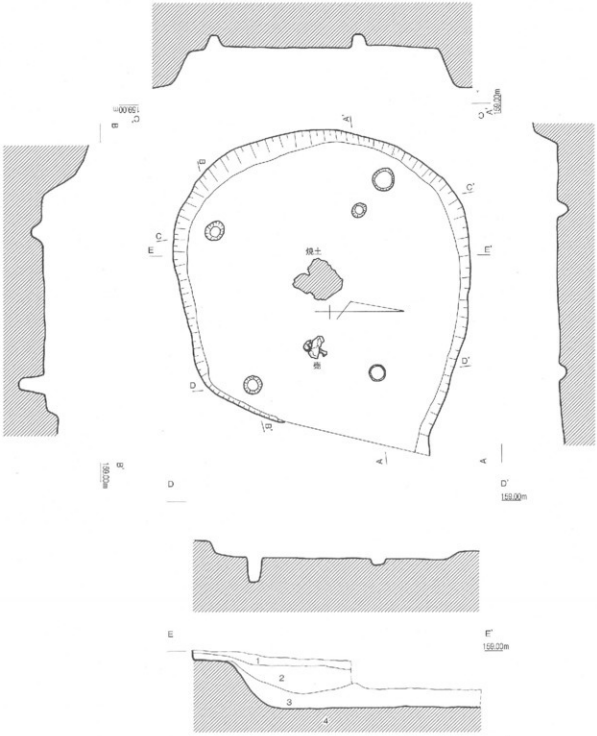
（第19図、図版16）

出土した土器の大半は接合しない細片であり、完全に復元できるものはなかった。出土遺物の総数は、定形コンテナ（内寸540㎜×150㎜×345㎜）3箱分である。多くは細片のため、図示することができなかった。その中で弥生土器5点（壺1、その他器種不明のもの3、高坏1）を図示したが、磨滅が激しいため全容のわかる出土遺物は皆無である。

1は長頸壺である。若干すぼまった頸部から口縁部が広がり、口縁端部が肥厚する。口縁部に凹線文が3条施され、頸部にも凹線文が施される。2～4は甕、もしくは壺の底部である。2，3は内面にヘラケズリが上方に向かって施されている。外面はヘラミガキが縦方向に施されているのが微かにみられる。5は高杯の杯部と脚部の接合部分で、円盤充填法によって杯の底部をふさいでいる。竪穴住居は、出土した遺物から弥生時代後期中葉の時期と推定される。



第19図　出土遺物（S=1/4）



1　黒褐色粘性砂質土(7.5YR3/1)
2　褐色粘性砂質土(埋土含む)(7.5YR4/3)
3　褐色粘性砂質土(埋土)(7.5YR4/4)
4　橙色粘性砂質土(地山)(2.5YR5/5)

第20図　竪穴住居平・断面図 (S=1/50)

(3) その他の遺構

P1（第21図）

竪穴住居の北6mの斜面に位置する。平面形は直径約47cmの円形を呈し、検出面から約5cmで段が付き、さらに約10cmで掘り込まれている。底から20cm程度の角礫を検出した。他に遺物はなく、時期、性格とも不明である。

P2（第21図）

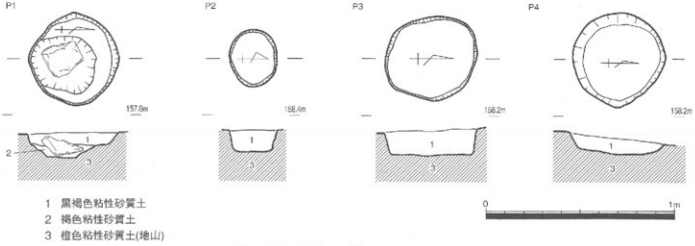
竪穴住居の北1mの斜面に位置する。平面形は直径約25cmの円形を呈し、検出面からの深さは約10cmを測る。遺物はなく、時期、性格とも不明である。

P3（第21図）

竪穴住居の北6mの斜面に位置する。平面形は直径約45cmの円形を呈し、検出面からの深さは約12cmを測る。遺物はなく、時期、性格とも不明である。

P4（第21図）

竪穴住居の北約3mの斜面に位置する。平面形は直径約50cmの円形を呈し、検出面からの深さは約10cmを測る。遺物はなく、時期、性格とも不明である。



第21図　遺構平・断面図（S=1/20）

(4) その他の遺物（第22図）

6、7は試掘調査時に出土した。いずれも小片のため全容は不明である。6は弥生土器の器台脚部で、脚裾部には凹線文が施されている。7は勝間田焼の椀底部である。

第22図　その他の出土遺物（S=1/4）

第V章　まとめ

勝田天山弥生墳丘墓

勝田天山弥生墳丘墓は、北西辺 15.9m、南西辺 17.0 m、南東辺 17.2 m、北東辺 16.6m の規模を持つ方形の貼石墳丘墓であることが判明した。貼石は 4 面に認められるが、墳丘北側に比較的集中して配されている。墳丘斜面上部には、直線状の列石が 4 面の所々に確認できたことから、墳丘斜面上部に列石を廻らせていたことが想定される。列石で囲まれた墳頂部の規模は、長辺 12.5m ×短辺 10.5 m を測る。墳丘四隅の石材の残存状態が悪いため、貼石については不明であるが、墳丘斜面上部の列石が隅部まで続いている。南北隅部については、貼石を確認できなかったが、東西隅部に比べ墳丘の傾斜がなだらかに続く。その他の貼石については、発掘調査が墳丘掘り下げ途中で終了したことや原位置を保っているものが少ないことを考慮しても、規則性を見出すことはできず、雑然と配されている。埋葬施設については、検出のみとなったが、墳丘主軸に並行した墓坑と直交した墓坑を検出したが、墓坑の切合い関係についてが不明である。墳丘中央部から墳丘西部にかけて後世の撹乱を受けていたことと墳丘全体の掘り下げを行わなかったため、複数の埋葬施設の存在も想定されるが、今回の調査では確認することはできなかった。出土遺物については、原位置を保ったと考えられるものは少なく、細片のものが多いが、勝田天山弥生墳丘墓は、弥生時代後期中葉から後葉にかけて築造されたものと推定される。

河内遺跡

河内遺跡は、遺跡の中心部分が丘陵尾根頂上部に位置したものと想定されるが、後世の開発行為により頂上部については、遺構を確認することはできなかった。丘陵斜面より直径約 4 m の隅丸方形の竪穴住居を 1 軒検出した。出土した土器から弥生時代後期中葉の時期と推定され、遺構に切合い関係が認められなかったこと、出土した遺物に時期差が認められなかったことから、竪穴住居は一時期のみ使用されたと推測される。

勝田天山弥生墳丘墓と河内遺跡の関係

勝田天山弥生墳丘墓と河内遺跡は、出土遺物から河内遺跡の活動時期と近い時期に勝田天山弥生墳丘墓が築かれたと推測される。勝田天山弥生墳丘墓と河内遺跡との比高は約 30m で、河内遺跡から南西を仰ぎ見る位置に勝田天山弥生墳丘墓は位置する。加えて勝田天山弥生墳丘墓の貼石が墳丘北側に集中しており、河内遺跡から見られることを想定して墳丘の荘厳化を図り、貼石が施されたものと考えられる。以上のことから勝田天山弥生墳丘墓に埋葬されていた人物が河内遺跡と関わりのある人物であることが推測される。

また試掘調査において確認した勝田天山遺跡については、トレンチを設定した箇所全体が窪んでおり、住居の可能性も考えられるが、工事予定範囲外のため、発掘調査は行わず、現状保存となった。トレンチでは、地山面で一部炭化しており、炭化部分と 20㎝程度の礫に挟まれた状態で弥生土器の高坏脚部が出土した。高坏は細片のため、正確な時期を判断することは難しいが、弥生時代後期のものと考えられる。周辺では焼土面など確認できず、遺構の性格を掴むことはできなかったが、墳丘墓との何らかの関係が考えられる。

美作地方では近年、弥生時代の墓制については徐々に解明されつつあり[※1]、今回調査した勝田天山弥

生墳丘墓の発見が、解明へつながる一資料として今後の研究が待たれる。

※1　藤島雪絵「岡山県津山市黒岩遺跡の発掘調査現説資料」津山市教育委員会　2012

参考文献

岩永省三「弥生時代における首長層の成長と墳丘墓の発達」『九州大学総合研究博物館研究報告』第8集　2010
小郷利幸「三毛ヶ池遺跡」『津山市埋蔵文化財発掘調査報告』48　津山市教育委員会　1993
柴野克己・岡本憲久編「下道山遺跡緊急発掘調査概報」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』17　岡山県教育委員会　1977
考古学研究会岡山例会委員会編「吉備弥生社会の新実像・古墳弥生時代のマツリ・弥生墓が語る吉備」
考古学研究会例会シンポジウム記録9　2013
近藤義郎『前方後円墳の起源を考える』青木書店　2005
近藤義郎「門の山1号墳」『佐良山古墳群の研究』1952
島根県古代文化センター・島根県埋蔵文化財調査センター『四隅突出型墳丘墓と弥生墓制の研究』2007
高尾浩司・後田直行ほか『梅田雲峯遺跡5』　国土交通省倉吉河川国道事務所・鳥取県埋蔵文化財センター　2009
但馬考古学研究会・両丹考古学研究会　『台状墓の世界』2004
田中義昭編『山陰における弥生墳丘墓の研究』島根大学考古学研究室　1992
藤真治ほか「みそのお遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』87　岡山県教育委員会　1993
中島健爾ほか編『竹田墳墓群』『竹田遺跡発掘調査報告』Ⅰ　鏡野町教育委員会　1984
中野知照・松本美佐子「新井三嶋谷墳丘墓発掘調査報告書」『岩美町文化財調査報告書』第22集　岩美町教育委員会　2001
中山俊紀『才ノ崎遺跡』津山市教育委員会　1985
肥後弘幸『方形墓石墓概論』『京都府埋蔵文化財論集』第6集　財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター　2010
福島孝行「卓状墓の展開」『京都府埋蔵文化財論集』第6集　財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター　2010
『栗鹿遺跡』『兵庫県文化財調査報告』第323冊　兵庫県教育委員会　2003
『東佳見遺跡・布勢鵜指奥墳墓群』『鳥取県教育文化財団調査報告』29　財団法人　鳥取県教育文化財団　1992
『第25回山陰考古学研究集会　四隅突出型墳丘墓とその時代』山陰考古学研究集会　1997

図　版

1　クリーンセンター予定地遠景（西から）

2　勝田天山弥生墳丘墓空撮（北から）

図版２

１　勝田天山遺跡トレンチ（南から）

２　勝田天山遺跡トレンチ土坑及び検出状況（東から）

1　勝田天山弥生墳丘墓調査前（北西から）

2　勝田天山弥生墳丘墓調査後（北西から）

1　勝田天山弥生墳丘墓調査後（南西から）

2　勝田天山弥生墳丘墓調査後（南東から）

1　勝田天山弥生墳丘墓列石検出状況①（北から）

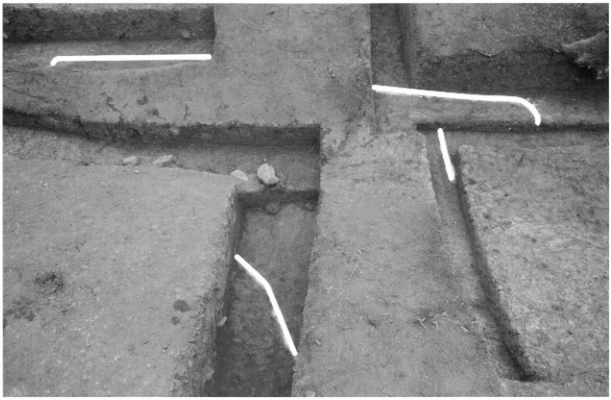
2　勝田天山弥生墳丘墓列石検出状況②（北から）

図版 6

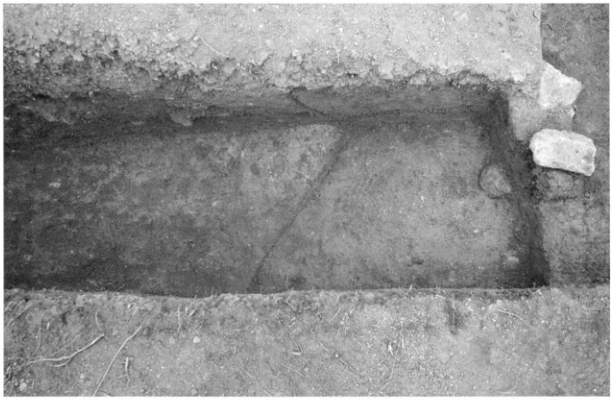
1 勝田天山弥生墳丘墓北西列石
（北から）

2 勝田天山弥生墳丘墓南東列石
（南から）

3 勝田天山弥生墳丘墓北東列石
（北から）

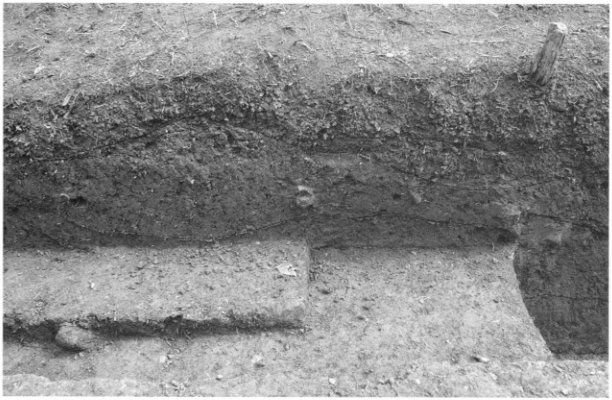


1　勝田天山弥生墳丘墓　墓坑検出状況全景　白線が墓坑（北西から）



2　勝田天山弥生墳丘墓頂北西トレンチ墓坑（南から）

図版 8

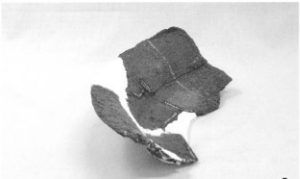


1　勝田天山弥生墳丘墓頂南西トレンチ断面（北西から）

2　勝田天山弥生墳丘墓頂北西トレンチ断面（北から）

勝田天山弥生墳丘墓全景（左上が北）

5


6

7

8

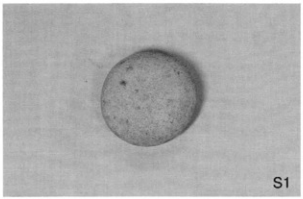
9

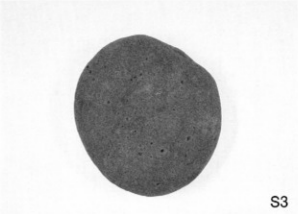
10

11

12

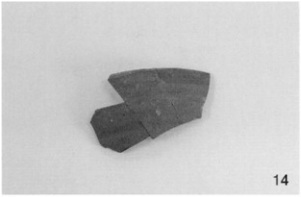
勝田天山弥生墳丘墓出土土器

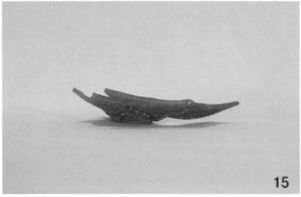




1　勝田天山弥生墳丘墓出土石製品

2　勝田天山弥生墳丘墓出土桃核





3　勝田天山弥生墓周辺遺構に伴わない出土遺物

1　河内遺跡調査前（北西から）

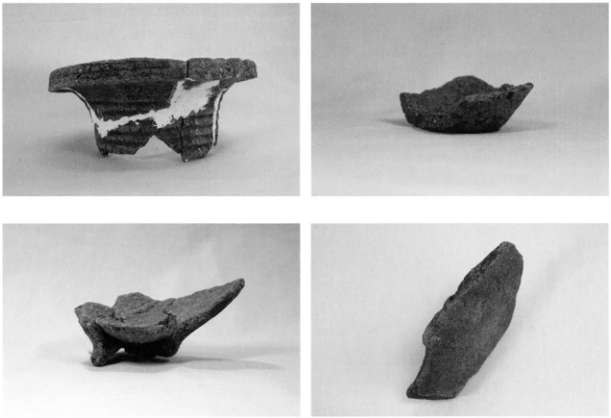
2　河内遺跡調査後（北西から）

1　河内遺跡竪穴住居（南から）

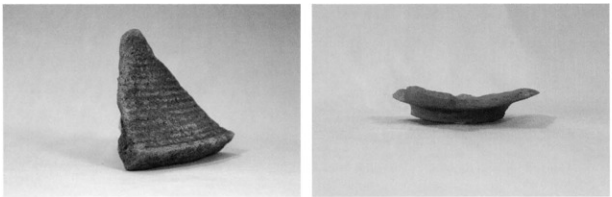
2　河内遺跡竪穴住居断面（南から）

1　河内遺跡竪穴住居土器出土状況（南から）

2　河内遺跡竪穴住居土器出土状況近景（南から）



1　竪穴住居出土土器



2　河内遺跡遺構に伴わない出土遺物

報告書抄録

ふりがな	かつたあめやまやよいふんきゅうぼ・こうちいせき
書名	勝田天山弥生墳丘墓・河内遺跡
副書名	美作市クリーンセンター建設に伴う発掘調査
シリーズ名	美作市埋蔵文化財発掘調査報告
シリーズ番号	第5集
編著者名	池田　和雅
編集機関	岡山県美作市教育委員会
所在地	〒709-4234　岡山県美作市江見945
発行年月日	2015年3月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
勝田天山弥生墳丘墓（かつたあめやまやよいふんきゅうぼ）	岡山県美作市（おかやまけんみまさかし）河内（こうち）143-2番地 杉原（すぎはら）348番地	33215	15	35°03′53″	134°11′08″	20101224～20110324	750㎡	記録保存調査
河内遺跡（こうち いせき）	岡山県美作市（おかやまけんみまさかし）河内（こうち）72番地	33215	16	35°03′57″	134°11′15″	20110304～20110324	120㎡	記録保存調査

所収遺跡名	種類	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
勝田天山弥生墳丘墓	墳墓	弥生時代後期	墳丘墓1	弥生土器	方形貼石墓
河内遺跡	集落	弥生時代後期	竪穴住居1	弥生土器	

要約

勝田天山弥生墳丘墓は、美作市内で初めて確認された方形貼石墓である。墳丘は後世の撹乱を受けており、墳頂から墳丘南西部にかけて大きく窪んでいた。墳丘墓は北西辺15.9m、南西辺17.0m、南東辺17.2m、北東辺16.6mの墳丘を持ち、墳丘斜面上部に列石が四方を巡るように配置されている。墳丘墓が記録保存から現状保存へ方針が変更したため、墳丘掘り下げ中に発掘調査を終了した。このため、墳丘斜面上部の列石から墳丘裾部にかけての貼石の配置についての詳細は確認できなかった。主体部は墳丘を断ち割ったトレンチで墓坑を確認したが検出のみ行い調査を終了した。遺物の出土から弥生時代後期中葉から後葉にかけて築かれたと考えられる。

河内遺跡では、遺跡の中心と考えられる尾根頂上は後世の開発により大きく改変を受けていたが、尾根南東斜面から一辺約4mの「隅丸方形」形の竪穴住居を1軒確認した。出土した土器から弥生時代後期中葉の時期と考えられる。

美作市埋蔵文化財発掘調査報告 第5集

勝田天山弥生墳丘墓・河内遺跡

美作市クリーンセンター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査

平成27(2015)年3月31日　印刷
平成27(2015)年3月31日　発行

編集・発行　美作市教育委員会
岡山県美作市江見945
印　　刷　有限会社ナイカイグループ
岡山県美作市豊国原350-5